

令和 4 年 5 月 23 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18H03452

研究課題名(和文) 香港に見る中国的価値観の受容と抵抗：周辺地域への示唆

研究課題名(英文) Acceptance and resistance of Chinese values in Hong Kong: implications for the surrounding area

研究代表者

倉田 徹 (Kurata, Toru)

立教大学・法学部・教授

研究者番号：00507361

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,200,000円

研究成果の概要(和文)：本共同研究は、参加者全体の共通の大きな問題意識として、香港に経済的利益をもたらす「中国化」が、香港で抵抗を受ける理由を解明することを目的として設定した。本研究には、政治・経済・法律などの社会科学分野の研究者と、歴史を主とした人文科学分野の研究者が集まった。本研究は制度や社会全体の動向だけでなく、人の心理のミクロの部分にも迫ることで、上述の問題への解答を目指した。多数の書籍・論文・研究報告の形で成果を公表することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の各メンバーの研究活動を通じて、「中国化」が多義的な語であり、そこには単に香港が中国によって変えられて行く客体であるというだけでなく、主体的に中国を受容し、或いは中国と摩擦を生じ、そして中国に抵抗するという、香港側からの反応や動きも影響していることも明らかになった。そういった中国とのやりとりは、中国の強大化が続き、ここに至った以上、香港だけでなく、日本や欧米諸国も含む全世界に今後広がり、展開されるであろうと考えられる。したがって、本研究プロジェクトの知見は、香港に関心を持つ者にとどまらず、中国の強大化の意味を考える上で、様々な形で今後も活用されるものと期待している。

研究成果の概要(英文)：This joint research was set up with the aim of clarifying the reason why "Chineseization", which brings economic benefits to Hong Kong, is resisted in Hong Kong, as a common major issue awareness among all participants. Researchers in the fields of social sciences such as politics, economics, and law, and researchers in the humanities field, mainly history, gathered for this research. This research aimed to solve the above-mentioned problems by approaching not only the trends of the system and society as a whole but also the microscopic part of human psychology. We were able to publish the results in the form of numerous books, papers, and research reports.

研究分野：地域研究(アジア)

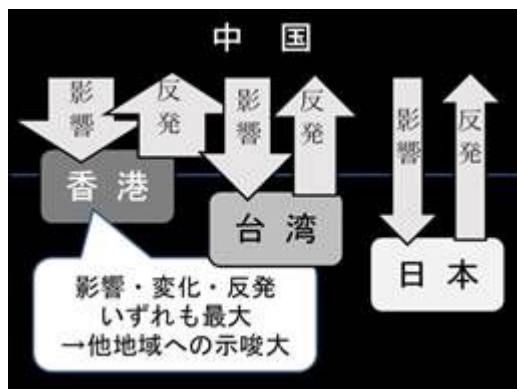
キーワード：香港 中国 民主化 自治 アイデンティティ 歴史 抵抗運動 経済

### 1. 研究開始当初の背景

中国は西欧型の政治経済体制とは異なる、権威主義政治と国家資本主義経済の体制で台頭している。このため、中国国内では、習近平政権は「制度自信」をキーワードとし、経済成長を実現した「中国モデル」の優越性を主張する。一方、中国国外では、この中国モデルへの疑念が強い。米国では、中国モデルは米国モデルに代わる可能性のある体制として警戒される。また、中国に近接する地域では、中国の台頭は中華帝国・華夷秩序の歴史の記憶を呼び起こす。

このように、中国の台頭は、主に中国国内の様々な変化の研究と、外交・国際関係分野の研究の関心事である。しかし実際には、この現象への接近には中国周辺地域内部の変化の検証が必要である。例えば、米ソ冷戦は「米ソの権力政治と生活様式をめぐる二重の闘争」であったとされる。即ちそれは、大国間の闘争というマクロの側面に加え、両陣営に所属する国民の生活様式・価値観をめぐる、国内政治・経済・社会を巻き込む総合的現象であった。米ソ冷戦と、近年の米中対立については様々な角度からその異同が論じられているが、こうした側面においては、中国の影響も米ソ冷戦当時と同様の現象を生むと考えられる。強力な国家の指導の下で、開発最優先の政策をとる中国モデルの価値観は、本質的に、西側の民主主義や自由・人権の価値観の下での市民の日常生活に、変更を迫るものとなるからである。

中国の影響、それを受けての周辺地域の変化、そして感情的な反発（いわゆる「中国要因」）を検証するために、香港は非常に重要な事例である。香港はかつて英国統治の下、中国大陸とは隔離された状態で、西洋型の政治・経済・社会のシステムを発展させた。現在は「一国二制度」方式の下、独自性の維持と国家統合という矛盾した目標に基づいて統治されている。また、香港は冷戦期の残滓として、中国大陸との間に経済等の格差と、住民間の心理的な距離感が存する。そういった中で、2014年に世界的ニュースとなった大規模民主化運動（「雨傘運動」）は、香港が中国の影響・自身の変化・感情的反発からなる「中国要因」の現象を、顕著に示している状況を明らかにした。「中国要因」は台湾・日本など近隣諸地域にとって重要な関心事であるが、中でも香港は「中国要因」の最前線に位置し、自身が持つ従来の制度や価値観と、現在の中国共産党政権のシステムの間乖離も大きく、中国から受ける影響においても、それに対する反応においても、最も示唆的な存在である。しかしながら、国際秩序についての研究は往々にして大国の相互関係に着目し、周縁部の小国・地域での事象を上述のような問題意識から研究する意識は十分ではないように思われた。



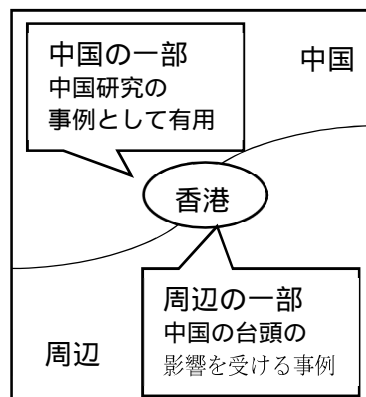
### 2. 研究の目的

そこで、本共同研究は、参加者全体の共通の大きな問題意識として、香港に経済的利益をもたらす「中国化」が、香港で抵抗を受ける理由を解明することを目的として設定した。

1997年の中国への返還後、香港では中国の主権掌握と経済力の増大を受けて、いわゆる「中国化」が進んだ。こうした「中国化」は、当初は香港の経済成長を支え、香港市民の多くもこれを歓迎した。しかし、やがて香港市民の反発が顕著となり、2010年代には「雨傘運動」に代表される、「中国要因」を一因とする大規模な抗議活動が頻発するに到った。

「中国化」が、なぜ抵抗を受けるのか、その理由を、政治・経済・社会・法の分野から、歴史観・アイデンティティなどの人の価値観の側面まで掘り下げて明らかにすることを本研究は目指した。

上述の問題に回答することで、本研究は二つの目的を達成できると想定した。第一に、激変の中の香港の現状を理解する総合的知見を提供できる（香港研究への貢献）。第二に、香港を取り巻く近隣地域の研究に対しても、重要な知見を提供できる。まず、中国の一部である香港の研究を通じ、台頭する中国の内部に発生する、民族・民主化・社会問題などの理解のヒントを示せる（中国研究への貢献）。次に、中国の周辺地域の一つとして香港を理解することで、東アジアなどの中国の周辺諸地域が同様に直面する「中国要因」の検証に対する比較参考事例を提供することもできる（アジア研究への貢献）。



### 3. 研究の方法

中国の台頭の影響は、香港に様々な変化をもたらし、そのことが香港市民の一部の反発を惹起

していると、本研究では考える。各種の社会科学・人文科学の問題群が生じており、本研究プロジェクトでは、研究代表者と6名の分担者が以下のような研究でこれらの問題への接近を試みた。

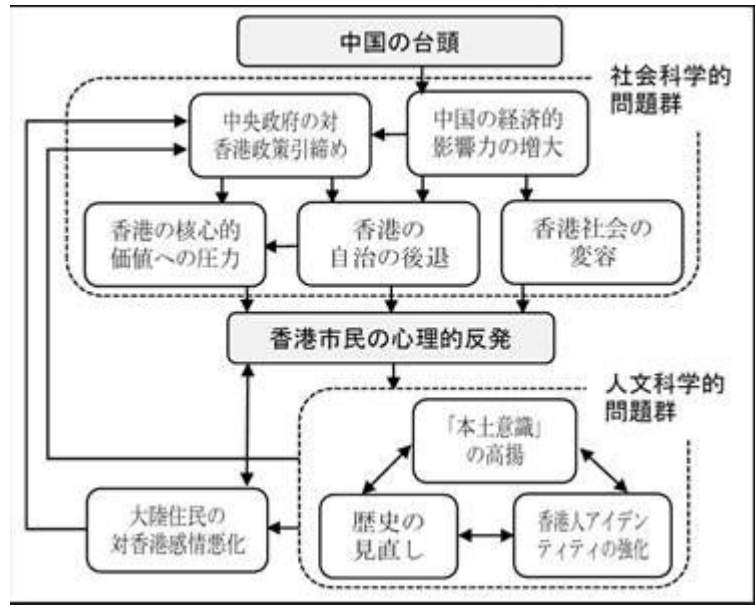
【社会科学的方法のアプローチ】

倉田徹(研究代表者)「中国政府の対香港政策の変遷」: 返還当初「高度の自治」を尊重した中国政府が、干渉を強め国家統合を強調するに到った政策転換を分析。

曾根康雄「中港間の経済関係の変化」: 中国大陸の経済成長や、大陸との経済融合の進展に伴う、香港経済の変質を分析。

澤田ゆかり「人の移動がもたらした社会問題」: 大陸から香港への越境出産・格差問題・住宅難など、社会問題に対する中国要因の影響と香港政府の対応を調査。

廣江倫子「中国政府の法解釈がもたらす香港司法の変容」: 北京の全人代常務委による香港基本法解釈など、政治による司法への影響を分析。



【人文科学的方法のアプローチ】

村井寛志「1950年代の外省人(籍)言説と香港住民のアイデンティティの変遷」: 戦後中国大陸から大量に流入した非広東語圏からの難民・移民に対する区別の意識が、今日の「香港人」アイデンティティと重なるのか、歴史的な連続と断絶を検討。

容應英(～2018年度)「『本土派』の思想潮流」: 「本土(地元優先)派」と総括される政治集団や、その多様な思想潮流を分析。

倉田明子「香港史研究のテーマ・視角の変遷」: 返還を機に活発化している中国大陸と香港における香港史研究の視角・論点を比較分析。

【研究内容】

本研究は、香港域内の変化についての詳細かつ正確知見を得るために、チーム全体での香港現地調査を重視する計画を持っていた。香港での文献資料収集、香港で開催される各種の学術会議への参加、地元研究者との意見交換を通じて得た分析視角から、インタビュー調査を行うこととした。現地調査は、問題意識と知見の共有のため、できる限りチーム全員で赴いて行うようにし、各種のインタビューに異なる専門のメンバーが在席することで知的な交流が促進されるようにした。同時に、国内ではすでに実施している定期的研究会を続けて開催し、関連する文献の精読や研究成果の共有を行った。完成年度には日本の学会・シンポジウムでの報告のほか、協力者を得て、香港でチームでの学術報告の機会を持ち、成果物の出版を目指すとした。

4. 研究成果

本研究の遂行期間中、香港では2019年に「逃亡犯条例」改正問題に端を発する巨大な抗議活動が発生した。これによって本研究が扱う、「中国化」に対する香港の抵抗の問題は急激に深刻化・複雑化した。本プロジェクトのメンバーもその背景を探るために急ぎ研究活動を展開し、2019年末には緊急出版の形で書籍の発刊を実現させた(倉田徹・倉田明子編『香港危機の深層』、東京外国語大学出版会)。

翌2020年には、中国政府が「香港国家安全維持法」を制定したことにより、本研究の問題意識には全く新しい展開が加わることとなった。本研究の成果の一部は廣江倫子・阿古智子編『香港国家安全維持法のインパクト: 一国二制度における自由・民主主義・経済活動はどう変わるか』、日本評論社、2021年に反映されている。

一方、2020年から世界規模で広がった新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年から本プロジェクトは海外での調査の実行が不可能となった。香港からの研究者招聘も不可能となり、研究計画は変更を余儀なくされたが、国内での共同研究活動と、書籍等を通じた情報収集・文献収集に重点を移して研究活動を継続することを強いられた。

しかし、その条件下においても、本プロジェクトは4年間の研究成果を2022年に論文集(倉田徹・小栗宏太編『香港と「中国化」: 受容・摩擦・抵抗の構造』、明石書店)として刊行することができた。他にも代表者・分担者は、後述の通り、多数の論文や学会報告を実施しており、多くの研究成果を形にして世に問うことができた。

香港が「中国化」したとの論はよく見られるが、本研究の各メンバーの研究活動を通じて、「中国化」が多義的な語であり、そこには単に香港が中国によって変えられて行く客体であるという

だけでなく、主体的に中国を受容し、或いは中国と摩擦を生じ、そして中国に抵抗するという、香港側からの反応や動きも影響していることも明らかになった。そういった中国とのやりとりは、中国の強大化が続き、ここに至った以上、香港だけでなく、日本や欧米諸国も含む全世界に今後広がり、展開されるであろうと考えられる。つまり、香港の経験は、ある意味では全世界の経験の先取りであり、本研究プロジェクトの知見は、香港に関心を持つ者にとどまらず、中国の強大化の意味を考える上で、様々な形で今後も活用されるものと期待している。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 倉田徹	4. 巻 2019年8月号
2. 論文標題 香港「逃亡犯条例」改正反対デモ：香港の「遺伝子改造」への抵抗	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 IDEスクエア	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉田徹	4. 巻 73巻7号
2. 論文標題 書評 中村元哉著 有志舎『中国, 香港, 台湾におけるリベラリズムの系譜』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中国研究月報	6. 最初と最後の頁 31-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉田徹	4. 巻 56号
2. 論文標題 トレンド2019 中国の「外交問題」化する香港政治：逃亡犯条例修正問題をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 82-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉田徹	4. 巻 73号
2. 論文標題 中国のキリスト教の未来のために：政治学の視点からの展望（中国キリスト教史：第六九回キリスト教史学会大会）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 キリスト教史学	6. 最初と最後の頁 32-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉田徹	4. 巻 57号
2. 論文標題 香港デモ 暴力の論理：米中を巻き添えにする「絶望の戦術」とは (特集 混迷深まる北東アジア)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 14-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小嶋華津子・倉田徹	4. 巻 57巻11号
2. 論文標題 対話 香港デモを通して考える 習近平体制の強さと弱さ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 公研	6. 最初と最後の頁 38-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉田徹	4. 巻 929号
2. 論文標題 香港デモ 混迷の構図	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 161-166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉田徹	4. 巻 44号
2. 論文標題 「世界標準」か、「中国の特色」か：香港の民主・自由・法治	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代中国研究	6. 最初と最後の頁 34-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉田徹	4. 巻 2019年12月号
2. 論文標題 香港区議会議員選挙：「想定外」の結果が示す中国の情報収集の弱点	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 IDEスクエア	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田ゆかり	4. 巻 311号
2. 論文標題 公的医療保険における個人口座の廃止が示すもの	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日中経済協会ジャーナル	6. 最初と最後の頁 16-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 曽根康雄	4. 巻 2019年11月25日号
2. 論文標題 香港の今（下）抗議活動の経済への影響	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際貿易（日本国際貿易促進協会）	6. 最初と最後の頁 3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 曽根康雄	4. 巻 2019年10月18日号
2. 論文標題 香港は「一日にして成らず」代替不能な国際金融機能	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 週刊エコノミスト	6. 最初と最後の頁 30-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉田徹	4. 巻 47巻3号
2. 論文標題 習近平政権下の香港「一国二制度」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 問題と研究	6. 最初と最後の頁 113-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田ゆかり	4. 巻 92号
2. 論文標題 「大都市香港の高齢化が示す『一国二制度』のジレンマ」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『現代中国』（現代中国学会誌）	6. 最初と最後の頁 46-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田ゆかり	4. 巻 296号
2. 論文標題 「持続可能な社会保障の構築へ：中国型福祉ミックスの模索」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『日中経協ジャーナル』	6. 最初と最後の頁 14-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤田ゆかり	4. 巻 20巻9号
2. 論文標題 「中国内陸部の在宅ケアにおける官民協力：壹智在宅養老情報サービスセンター（安徽省蚌埠市）の事例から」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『地域ケアリング』	6. 最初と最後の頁 77-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 倉田徹
2. 発表標題 「政治的中立」の成立と変容 冷戦期の香港から「逃亡犯条例改正問題」まで
3. 学会等名 日本現代中国学会全国学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 村井寛志
2. 発表標題 香港人言説・アイデンティティの歴史的展開
3. 学会等名 日本現代中国学会全国学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 倉田明子
2. 発表標題 香港史におけるキリスト教・市民社会形成の観点から
3. 学会等名 日本現代中国学会全国学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 倉田徹
2. 発表標題 Sharp PowerからHard Powerへ? : 香港に見るSharp Powerの効果と限界
3. 学会等名 日本国際政治学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 倉田徹
2. 発表標題 「世界標準」か、「中国の特色」か：香港の民主・自由・法治
3. 学会等名 中国現代史研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 倉田明子
2. 発表標題 歴史的観点からみる宗教の「中国化」と中国キリスト教会の現状
3. 学会等名 キリスト教史学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村井寛志
2. 発表標題 上海大衆文化和香港及海外華僑：以《良友畫報》為中心
3. 学会等名 中國上海“城市研究新動向”國際學術研討會
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 容應莢
2. 発表標題 耶魯大学的留美幼童與日本人留学生的比較：1870年-1887年
3. 学会等名 容コウ與中西文化交流學術研討會（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 倉田徹、倉田明子（編）、倉田徹、廣江倫子、澤田ゆかり、倉田明子、村井寛志他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京外国語大学出版会	5. 総ページ数 392
3. 書名 香港危機の深層：「逃亡犯条例」改正問題と「一国二制度」のゆくえ	

1. 著者名 倉田徹（編）、倉田徹、曾根康雄、廣江倫子、澤田ゆかり、倉田明子、村井寛志他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 272
3. 書名 香港の過去・現在・未来：東アジアのフロンティア	

1. 著者名 若林正文、家永真幸（編）、倉田徹他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 360(197-207)
3. 書名 台湾研究入門（一国二制度 倉田徹 ）	

1. 著者名 周保松、倉田徹、石井知章	4. 発行年 2020年
2. 出版社 社会評論社	5. 総ページ数 224
3. 書名 香港雨傘運動と市民的不服従：「一国二制度」のゆくえ	

1. 著者名 遊川和郎（編）、後藤康弘、澤田ゆかり他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 亜細亜大学アジア研究所	5. 総ページ数 194(163-193)
3. 書名 『「中国の夢」は実現するのか』	

1. 著者名 遊川和郎（編）、大西康雄、澤田ゆかり他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 亜細亜大学アジア研究所	5. 総ページ数 276 (121-148)
3. 書名 『習近平政権第1期総括』	

1. 著者名 廣江倫子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 信山社	5. 総ページ数 319
3. 書名 『香港基本法解釈権の研究』	

1. 著者名 Clara Wing-Chung Ho (編), Ricardo K. S. Mak (編), Yue-him Tam (編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 De Gruyter Oldenbourg	5. 総ページ数 300 (243-262)
3. 書名 Voyages, Migration, and the Maritime World: on China's Global Historical Role	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	曾根 康雄 (Sone Yasuo) (00459851)	日本大学・経済学部・教授  (32665)	
研究分担者	倉田 明子 (Kurata Akiko) (20636211)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授  (12603)	
研究分担者	澤田 ゆかり (Sawada Yukari) (50313268)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授  (12603)	
研究分担者	村井 寛志 (Murai Hiroshi) (60409919)	神奈川大学・外国語学部・教授  (32702)	
研究分担者	廣江 倫子 (Hiroe Noriko) (90361849)	大東文化大学・国際関係学部・准教授  (32636)	
研究分担者	容 應莢 (Yung Ying-yue) (20230849)	亜細亜大学・経営学部・教授  (32602)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 雨傘運動後の香港	開催年 2019年～2019年
--------------------	--------------------

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------